

冬 春 オオタキサンオオコバネガハネカクシ
秋 夏 世界で香川県にしかない昆虫。水の結れなかった沢の崖の下から見つかる。



冬 春 ムスアガミドリシジミ
秋 夏 標高500m以上の谷筋の、サクラ類(桜虫のエサ)の多い環境に生息する。オスは、羽の交差をすそで支えるために、午前中に翼折り飛行を行う。

大滝山の昆虫

豊かな森林環境と水環境が守られてきたため、多くの森林性昆虫と清流を好む水生昆虫が生息する。世界で大滝山にしかない種、県内では大滝山にしか生息しない種、大滝山に生息が集中している種など、多様な昆虫が生息し、その大半がブナ林など、山頂付近の落葉広葉樹林で見られる。

冬 春 ヨコヤマヒゲナガガミキリ
秋 夏 幼虫も成虫もブナ・アサナの生木だけを食べる。成虫の体の色は、ブナ類の樹皮に似ているため見つけにくい。



冬 春 エゾゼミ
秋 夏 香川県では、大滝山や竜王山、大川山などの高所にすむ。針葉樹林に多く見られ、特にアカマツ林で鳴いている。



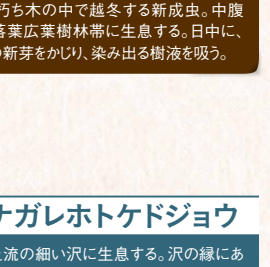
冬 春 シラクビナナフシ
秋 夏 標高の高い場所に生息する希少なナナフシ。香川県では、2017年に大滝山で見つかった。写真の被写体はその最初の個体。



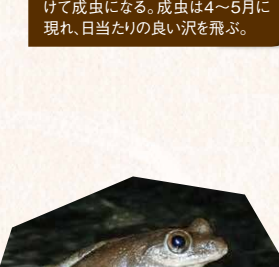
冬 春 キンキコリクワガタ
秋 夏 朽ち木の中で越冬する新成虫。中腹以上の、落葉広葉樹林帯に生息する。日中に、ブナなどの新芽をかじり、染み出る樹液を吸う。



冬 春 ナガレホトケドジョウ
秋 夏 上流の細い沢に生息する。沢の縁にある石や落ち葉の下にかくれている。



冬 春 ムカシトンボ
秋 夏 沢沿いのフキの葉に産卵する。メス(幼虫)は、5-6月にかけて成虫になる。成虫は4-5月に現れ、目当たりの良い沢を飛ぶ。



大滝山の淡水魚

河川の源頭部から上流域に相当するため、種類数は多くない。内場川・小出川には天然分布のナガレホトケドジョウやカハヤなど、8種が生息している。



冬 春 カジカガエル
秋 夏 水から出た藪の上に蟻塚を持ち、蟻を狩る。涼涼にすみ、「フィフィフィフィ、フィーフィー」と美しい声で鳴く。



冬 春 シロマダラ
秋 夏 夜に活動し、寝ているカガなどの爬虫類を専門におそって食べる。



大滝山のその他の節足動物類

県内屈指の森林環境が、豊かな土壌を育み、土壌性節足動物の宝庫となっている。特にザトウムシ類は日本有数の種多様性が高い地域となっている。県内では、25種が見つかっており、その多くが大滝山を含めた讃岐山脈に生息する。



冬 春 タマユスデ
秋 夏 標高が高く、高湿度の環境に生息する。朽木の中や下で見られる。ダンゴムシと違い、まるまった時に顔がかくれる。



冬 春 サスマタアゴザトウムシ
秋 夏 カニのハサミのような巨大な鎌角を持ち、それを使ってエモミを捕まえて食べる。



このガイドマップについて
 ●大滝山には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
 ●このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
 ●オレンジ色で示した道は、現在通行止めとなっています。(令和4年3月25日)



ビューポイント バードウォッチング 駐車場 トイレ ▲大滝山 946m

大滝山の両生類・は虫類

ほとんどの種が夜にしか見かけないが、溪流ではカジカガエルが昼間から鳴いている。雨の夜、山道をドライブすると、低山ではなかなか見つけることの出来ない珍しいヒビ類に遭遇することができる。

冬 春 タカチホヘビ
秋 夏 湿った環境に生息し、落ち葉の中でミズズミ類を専門におそって食べる。



冬 春 ナラビヒダギセル
秋 夏 主に樹上に生息する。特に安定した環境に生えている大木を好む傾向がある。県内での生息地は極めて少ない。



大滝山の陸貝

植生が豊かで、湿度が高いため、面積の割には多くの種が生息する。この地が、分布域の端となっている種や世界で四国だけにしかない種も含まれ、学術上重要な地域となっている。

冬 春 イボイボナメクジ
秋 夏 香川県で初めて発見された個体が新種記載された。他のナメクジと比べて乾燥した場所に生息し、カタツムリ頭を食べる。写真は、セウチマイマイの殻に入れて、内部を食べている様子。



冬 春 アナグマ
秋 夏 地面に巣穴を掘って生活する。肉食を中心とした雑食性で、土を掘ってミミズなどを食べる。



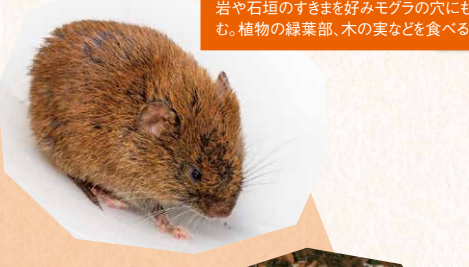
大滝山の哺乳類

県内のほとんどの小・中・大型の哺乳類が生息している。種類によって、食べる物が異なり、主なエサとして土壌中の昆虫やミミズ、木の芽・葉・実や樹皮、下草や地下茎・貯蔵根、小型動物などがある。

冬 春 ノウサギ
秋 夏 草原から森林にかけて幅広く生息する。主に夜に活動し、葉や芽、樹皮などを食べる。



冬 春 スミスズミ
秋 夏 谷筋など湿気のある環境を好み、岩や石垣のすきまを好みモグラの穴にもすむ。植物の緑葉部、木の实などを食べる。



冬 春 テン
秋 夏 岩の隙間や樹洞を巣にする。雑食性で、ミミズや昆虫、果実などを食べる。



冬 春 ハクビシン
秋 夏 大滝山の正式な報告は1965年(昭和40年)だがそれ以前から知られ、肉が美味といわれていた。外来種で果実や小動物を食べる。



冬 春 アサダ
秋 夏 県内では大滝山と竜王山にのみ自生する落葉高木。成長に伴って樹皮が割れ落ちる。



冬 春 アケボノスミレ
秋 夏 県内では大滝山と讃岐山脈にのみ自生する。

大滝山の植物

県内で最も植物相が豊かな地域。全体的に個体数の少ない種類が多く、多くの種に出会うために何度も通う努力が必要だ。



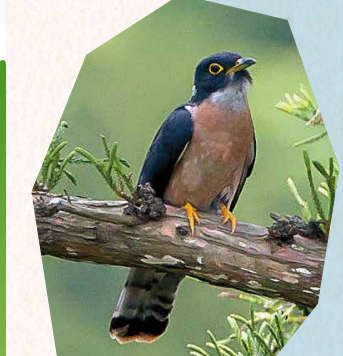
冬 春 ミスナラ
秋 夏 県内では大滝山と竜王山、大川山にのみ自生する落葉高木。



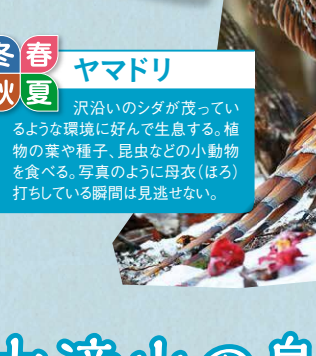
冬 春 ヒゴスミレ
秋 夏 県内における分布の主体は讃岐山脈にあり、その他、女木山や小豆島にも自生する。



冬 春 イヌブナ
秋 夏 県内では主に讃岐山脈に自生する。冷温帯林の自然植生度の高い、限られた範囲に自生する。



冬 春 クマタカ
秋 夏 奥山に生息する、めったに見られない大型の猛禽類。ウサギなどの中小動物を襲って食べる。



冬 春 ヤマドリ
秋 夏 沢沿いのシダが茂っているような環境に好んで生息する。植物の葉や種子、昆虫などの小動物を食べる。写真のように母衣(ほろ)打ちしている個体は見逃さない。



冬 春 ジュウイチ
秋 夏 主に、山地の広葉樹林に生息する。大滝山ではオオルリの巣に卵を産み、その親鳥に雛を育てさせる。ケムシを好んで食べる。



冬 春 カワガラス
秋 夏 渓流に生息し、滝の裏の岩のすきまに巣をつくる。写真のように、水生昆虫やカニ・小魚を食べる。



冬 春 オオコノハズク
秋 夏 夏、樹洞などで繁殖する。写真のように、ジネズミなどの小型哺乳類や鳥類、昆虫などを食べる。



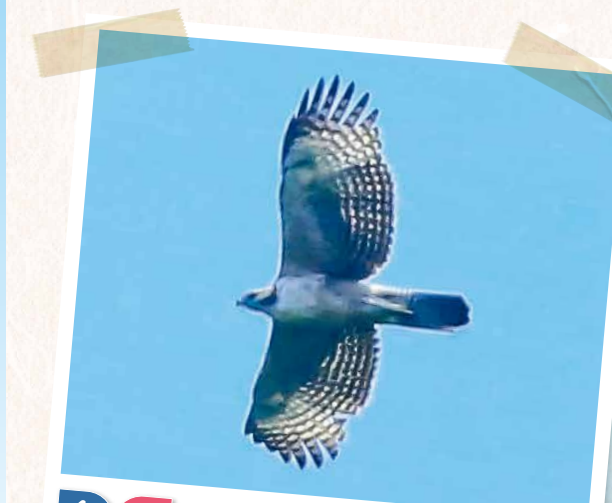
冬 春 ヒガラ
秋 夏 主に針葉樹林に生息し、アカツツの種子を好んで食べる。写真のように、ミミズなどの昆虫やワタモなども食べる。



冬 春 ミゾゴイ
秋 夏 暗い森林に好んで生息し、夜に「チー、チー」と鳴く。写真のように、ミミズなどの昆虫やワタモをかき分けてついでる。



冬 春 ツミ
秋 夏 森林性の小型の猛禽類。主に小型の鳥類を襲って食べる。



冬 春 アカショウビン
秋 夏 主に、山奥の渓流の周辺に生息する。写真のように、カエルや魚、トケゲやサワガニなどの小動物を食べる。



冬 春 アカショウビン
秋 夏 主に、山奥の渓流の周辺に生息する。写真のように、カエルや魚、トケゲやサワガニなどの小動物を食べる。